

道 徳 科 学 習 指 導 案

令和2年11月27日（金） 第5学年3組（5年3組教室） 指導者 内田 圭祐

【主 題】 本当の友達「ミレーとルソー」（内容項目B10「友情，信頼」）

考 察	道徳的諸価値についての理解	自己の生き方についての考え	道徳性 (道徳的判断力，道徳的心情，道徳的实践意欲と態度)
育成を目指す 資質能力	・「本当の友達」のあり方について，自分の生活経験や教材の登場人物の状況や行為を基に，友達や教師と話し合い，信頼関係を深めた友達がいることのよさに気付くことで，互いに高め合う友達関係をつくろうとする道徳的心情を養う。		
児童の 実態	・ 楽しく生活したり，助けてもらえたりするなど，友達がいることのよさは理解している。 ・ 信頼関係を深めた友達がいることで互いを高められることは理解していない。	・ 一部の児童は，信頼関係を深めた友達だからこそ，友達に対して行うことや行わないことがあることに気付いている。 ・ 一部の児童は，信頼関係を深めた友達だからこそ，友達に対して行うことが難しいことがあることに気付いている。	・ 互いに楽しく生活したり，助け合ったりする友達関係をつくっていかうとする道徳的判断力をもっている。 ・ 互いに高め合えるようなよりよい友達関係をつくっていかうとする道徳的判断力はもてていない。
価値	信頼関係を深めた友達がいることはよいことである。なぜなら，そのような友達は，自分のことを真剣に考えて，自分のためになるように行動してくれるからである。また，互いのことを真剣に考えることで，互いを磨き合い，高め合う友達関係が生まれる。しかし，高学年の児童は，友達のことを真剣に考えて行動することよりも，友達関係が壊れないように行動することが多い。そこで，信頼関係を深めた友達がいることのよさに気付くことが大切となる。 ミレーに自分が絵を買ったことを伝えなかったルソーの姿から，児童は「本当の友達」についての問題意識をもつことができる。また，本当のことを伝えたときの登場人物と自分の気持ちや状況などに着目することで，「本当の友達」は，友達のことを真剣に考えた上で行動することに気付く。そして，話し合いを進める中で，「本当の友達」がいることで，互いを認め合い，高め合えることに気付く，友達とよりよい友達関係を築いていこうと考えられるようになる。		
見方・考え方	「本当の友達」のあり方について，自己との関わりで多面的・多角的に捉え，これからの自己の生き方について考えること		
今後の学習	6年「陽子、ドンマイ！」での男女関係なく助け合い，高め合う友達関係のよさについて考える学習へと発展していく。		
他の教育活動との関連	・ 友達の気持ちや状況を真剣に考えて行動することについて 例：友達から悩みなどの相談をされる場面，友達が困っていそうなときに話しかける場面，友達がいけないことをしたことを知った場面		

本時の学習（１／１時間目）

ね ら い 「本当の友達」のあり方について話し合うことを通して、本当の友達とは、友達のことを真剣に考えて行動する人のことであることに気づき、互いに高め合えるようなよりよい友達関係をつくろうとする道徳的心情を養う。

評価の視点 本当の友達について、生活経験や複数の登場人物の立場、本当の友達になることの難しさから考えるなど、多面的・多角的に考えたことを、発言したり記述したりしている。 <発言・タブレット>

学習活動と児童の意識	指導上の留意点
１ 教材を読み、学習課題をつかむ。 - 友達とは、休み時間に一緒に遊んだり、ケンカをしたりしても仲直りをして過ごしてきたな。 - 教科書に出てきたミレーとルソーは本当の友達っていう感じかもしれないな。でも、本当の友達ってどんな友達なのかな。（問題意識） 学習課題：本当の友達とは、どんな友達なのだろう	○「本当の友達」のあり方についての自分の考えを自覚することができるよう、これまでの友達との過ごし方について問いかける。 ○「本当の友達」のあり方についての自分と友達の考えの共通点や相違点を自覚できるよう、これまでの友達との過ごし方を伝え合うよう促す。 ○「本当の友達」のあり方についての問題意識をもてるよう、教材「ミレーとルソー」の範読後、物語の中の本当の友達の有無を問いかける。
２ 学習課題の解決に向けて話し合う。 ・本当の友達とは、嘘をつくことができる人だと思うな。だって、嘘をついた方が、友達のためになることもあるから。 ・確かに、何年かたってもお互いのことを忘れないのも本当の友達だと思うな。友達のことを心から心配しているわけだから。 ・本当の友達とは、友達のことを心配したり、相手のために嘘をついたりすることができる人のことだと思うな。 ・ルソーが本当のことを言わなかったのは、ミレーに自信をもってもらうためだと思うな。自分が買うって言ったら同情されてるって思われると考えたんじゃないかな。本当に友達のことを考えたからそうしたのだと思うよ。 ・自分がルソーだったら、自分が絵を買ったことを伝えようだな。そうすると、そのときは、感謝されそうだけど、絵を描くことをがんばろうとする気持ちは高まらないかもしれないな。 ・ミレーは、ルソーに助けられながら、期待に応えようと絵を描くことをがんばって、ルソーは、ミレーがいたから画家としてがんばったのかもしれないな。本当の友達がいることで高め合えるのだな。 ３ 学習課題を解決し、これからしていきたいことについて考える。 ・本当の友達とは、相手のことをよく考えて行動する人のことだと思うな。本当の友達がいることで、お互いに高め合うことができるな。（問題を解決した意識） ・これから友達の将来のことまで考えて、行動したいな。そんなことを考えられるような友達関係になれるといいな。	○学習課題に対する自己の考えを自覚できるよう、タブレットに学習課題に対する初発の考えを書くよう促す。 ○学習課題に対する自己の考えを多面的・多角的にできるよう、タブレットに挙げられている友達の考えを見て、考えの理由を聞きに行くよう促す。 ○学習課題に対する考えの理由を学級全体で共有できるよう、参考になった友達の考えや友達に伝えたい自己の考えを問いかける。 ○「本当の友達」とは、友達のことを真剣に考えて行動する人のことであることに気付けるよう、ルソーが本当のことを伝えなかった理由を問いかける。 ○「本当の友達」になることの難しさに気付けるよう、自分がルソーの立場だったら行うことや予想される結果を問いかける。 ○「本当の友達」がいることで互いに高め合えることに気付けるよう、ルソーが助けてくれたことにより、ミレーががんばれたことと、ミレーががんばれたことにより、ルソーががんばれたことを問いかける。
	○学習課題に対する自分の考えを最初の考えよりも深められるよう、タブレットの友達の考えやクラス全体で話し合った考えを取り入れながら、自分の考えを書くよう促す。 ○これからの生活への見通しをもてるよう、「これからの友達との過ごし方」の視点を提示する。 ○これからの生活への意欲をもてるよう、生活の見通しを具体的にもてたことを称賛する。

授業の振り返り	※授業の様子は、本校 HP でも紹介しています。 【教育研究→令和2年度提案・部内授業の様子】
機器	タブレット（1人1台）、大型モニター
使用アプリ	ロイロノート
機能等	提出箱（共有・比較）

○実際の授業の流れと児童の様子

【導入】 児童は、今までの友達との過ごし方を想起し、「遊ぶ」「ケンカをする」「仲直りをする」など、多様な意見を出した。次に、「ミレーとルソー」という教材を読み、「2人は本当の友達であるか」という教師の問いかけに対して、ほとんどの児童は本当の友達であるという考えに挙手をしていた。そして、自分たちと登場人物の友達関係を比べ、「本当の友達」のあり方についての問題意識をもち、「本当の友達とは、どんな友達なのだろう」という学習課題を立てた。

【展開】 児童は、学習課題に対する自分の考えを「支える」「支え合う」「信頼」「相手のことを考える」などを書いて、提出箱に出した。ある児童は提出された学習課題の考えの一覧を見て、最初の「支え合う」という考えに、友達の「相手のことを考える」という考えを付け足して、「本当の友達とは、相手のことを考えた上で、支え合うことができる友達」としていた。これは、多様な他者の考えを共有することにより、自分の考えが一面的であることに気付き、学習課題について多面的・多角的に考えた姿と分かる。一方で、短時間で多くの考えを共有したことにより、自分の考えと友達の考えの共通点や相違点に気付けない児童も見られた。その後、提出された友達の考えと自分の考えを比較しながら、友達に考えの



＜学習課題に対する考えを共有する様子＞

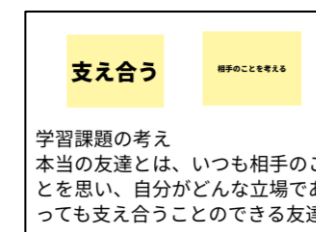
理由を聞きに行った。個別の話合いの後、学級全体で考えを出し合い、ミレーとルソーのような本当の友達関係となることのよさや難しさについて話し合った。

【終末】 教師は、本時に学習したことを踏まえて学習課題に対する考えをタブレットに書く機会を設けた。最初に共有した自分や友達の学習課題に対する考えをタブレット上に取り出し、黒板を見て、「本当の友達とは、いつも相手のことを思い、自分がどんな立場であっても支え合うことのできる友達」として学習課題に対する考えをまとめた。これは、タブレットや黒板に視覚化された考えを用いることにより、互いの考えのよさを活用して、より自分が納得する考えをもつことができた姿であると考えられる。一方で、視覚化された考えが多数あることにより、考えを羅列するだけになってしまい、考えをまとめることができない姿も見られた。

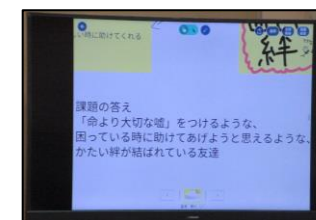
最後に、大型モニターを使って学習課題に対する自分の考えを発表した。



＜考えの理由を聞く様子＞



＜改めて書いた自分の考え＞



＜大型モニターで発表される意見＞

○授業改善に向けて

- ・自分の考えが一面的であることに気付いた上で、道徳的価値について議論することができるよう、タブレットに示す考えの数を制限し、自分と友達の考えの違いを十分に比較する時間を確保することが必要である。
- ・多様な考えを自分の考えとしてまとめることができるよう、使用する考えの数を制限したり、思考ツールを使ったまとめ方を例示したりすることが必要である。